



ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 I 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2024 年 8 月 第 13 号

みなさんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしている吉野です。

前回に引き続き、今回も日本の小学校が夏休み中ということで、ホームページ上で読んでくださる方々に向けて、このナミビア通信を書かせていただきます。今回は、ナミビア通信 12 号で紹介させていただいた「第 1 回教育開発ワークショップ」の続編として開催した「第 2 回教育開発ワークショップ」について書いていきたいと思います。

第 2 回 教育開発ワークショップ

2024 年 6 月 10 日～12 日の 3 日間、首都ウィントフックにて JICA による「第 2 回教育開発ワークショップ」が開催され、私はプレゼンター兼ファシリテーターとして協力させていただきました。今回も前回の「第 1 回教育開発ワークショップ」と同じ 6 校から算数教育に関わる現地教員 2 名ずつ、スワコップムントとウォルビスベイの小学校から 1 名ずつ、それらの学校を管轄するオマルルサーキットオフィスから 1 名の計 15 名の現地教員の方々に参加していただきました。また、オブザーバーとして、CEO (Chief Executive Officer) や SEO (Senior Education Officer) として算数教育に関わる方々にも参加していただきました。



本ワークショップの目的

前回のワークショップで現地の先生方が作成した「アクションプラン」について約 5 ヶ月間のモニタリング期間を振り返り、今後に向けて「新アクションプラン」を作成することでした。

本ワークショップでのアクションプラン振り返りの流れ

①「できた」「できなかった」の分類

先生方は第 1 回のワークショップにて、3～6 個のアクションを自分のアクションプランとしてシートに書いていました。まずは、その 1 つ 1 つの項目について、アクションを「実行したか」「実行しなかったか」ということだけを単純に振り返り、分類してワークシートに記入していきました。



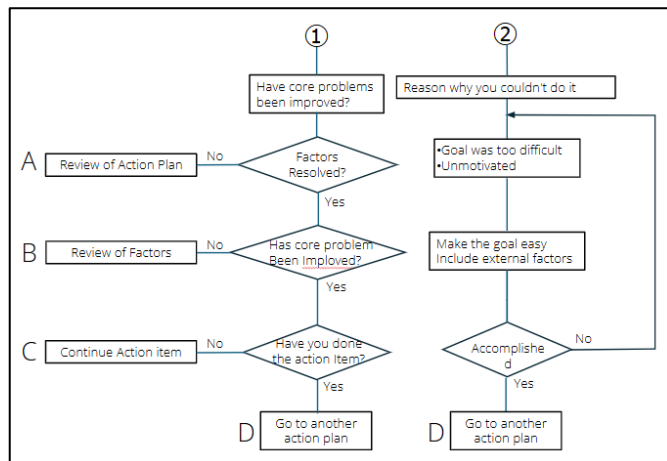
② 「できた」ことの分析

「できた」に分類した項目だけに焦点を当てて分析を行いました。アクションを実践したとしても、それが効果的だったか、根本の問題は解決されているか、今後も継続する必要があるか、継続可能かなど、細かく分析しました。その分析をもとに、内容を見直すか継続するかを考えたり、そのアクションが定常化していれば、バックグラウンドで継続させて新たなアクションプランを設定したりしました。

③ 「できなかった」ことの分析

次に「できなかった」に分類した項目だけに焦点を当てました。できなかった原因を考え、それをできるようにする方法を考えたり、内容をより達成しやすい形に見直したりしました。また内容を見直すだけでなく、外発的動機付けを設定する方法なども紹介し、より達成可能なプランを考えていきました。

最終的に「できたこと」「できなかったこと」で分析して考え直したプランをもとに「新アクションプラン」を設定しました。



Worksheet ④ [Not Accomplished]		Why wasn't it accomplished?	How to make it easier to accomplish
From wide	✓		
ers written	✓		
g	X	- Not making enough time for it - Other priorities - More self motivation	- Organise and schedule time better - Do more marking in the class while they are working
ie with	X	- Not making enough time for it - Other priorities - More self motivation	- Organise and schedule time better - Give tests not every week, but maybe after every two weeks
g more also	X		
	✓		
videos	✓		

テスト分析とその活かし方について

今回のワークショップでは、アクションプランの振り返りという内容に加えて、子供の実態把握の大切さを現地の先生方に伝えるために、診断テストの作り方と分析の仕方、またその分析の活かし方についての講義とワークを行いました。講義は JICA 個別専門家として南アフリカで勤務されている方からオンラインで実施していただきました。その講義の内容を受けて、実際に現地の先生方が、事前にナミビアの小学校で実施した診断テストの分析をするワークを行いました。2023 年 3 月まで JICA 海外協力隊としてナミビアで活動されていた先輩隊員にも診断テストの作成や、その分析に関するワークの準備にご協力いただきました。



本ワークショップを振り返って

アクションプランを作っただけで終わるのではなく、また実行して終わるのではなく、それによって根本にある問題が解消されたかどうかが大変だということを意識し、より実現可能な目標を再考することができた非常に良い機会だったと思います。事後アンケートからもワークショップの内容に満足して下さった先生方が多く嬉しかったです。また私にとってワークショップでのプレゼンテーションは初めてで、良い経験になりました。こうした機会を定期的に設けることは先生方のやる気の持続にもつながりますが、JICA 海外協力隊がいつまでもこれを続けることはできません。しかし、この 2 回のワークショップで先生方が一生懸命考えたことを無駄にしたいとは思いません。先生方にとって有益かつ持続可能な何かを残すことができないか、残された任期の中で自分にできることをよく考えていきたいです。